

明治大学校友会 東京都多摩支部
多摩市地域支部
紫紺



(第10号)



発行 明治大学校友会東京都多摩支部多摩市地域支部 発行日 平成30年2月1日
発行人 中山 雅雄 住所 [redacted] Tel/Fax 042-[redacted]



謹賀新年

会員皆様の
ご健康とご多幸を
お祈り申し上げます

平成三十年 元旦

新年会開催

平成30年1月13日(土) 12時30分から多摩永山情報教育センター・スマイルホテル内3F「大和」(多摩市諏訪2-5-1)にて、会員20名参加のもと多摩市地域支部新年会を開催しました。開会に先立ち1月4日に逝去された、わが校友である野球界のレジェンド、故星野仙一氏に謹んで哀悼の意を表し黙とうをささげました。

藤川幹事長が司会進行を務め、中山支部長の年頭挨拶に続く茂木副幹事長による乾杯の音頭で、宴は始まりました。しばらく料理に舌鼓を打ちながら和やかに懇談した後、久し振りに参加された方々から近況報告がありました。続いてビンゴ大会、カラオケ大会等で歓声も沸いて大変盛り上がり、温かい雰囲気になりました。

最後に菊池副支部長の中締め、上春幹事の指揮で校歌斉唱、安波副支部長による万歳三唱と続き、新しい一年が素晴らしい年となることを祈念して閉会しました。



明治大学校友会多摩市地域支部
平成30年新年会

検索

明治大学校友会
多摩市地域支部

充実したホームページを
ぜひご覧ください。

<http://meijikoyu-tamashi.jimdo.com/>

上期活動報告

一、南極観測船&サッポロビール工場見学

7月9日(日)、日野地域支部主催の「南極観測船しらせ&サッポロビール千葉工場見学」に参加しました。当日は猛暑の中、多摩市地域支部6名、日野地域支部5名の校友がJR津田沼駅に集合しシャトルバスに搭乗、30分で現地に着。港に浮かぶ「しらせ」、そして隣接する「サッポロビール千葉工場」の見学を行いました。



「SHIRASE」

写真は、宗谷、フジ、1代目に続く2代目「しらせ」。1万1千トン。240名を乗せ3万馬力で砕氷能力のある観測船です。自衛隊所属で南極への貨物運搬が優先される設計のため、広い通路があるもの。の階段は狭く急で年配者にはちよつと危険でした。

サッポロビール千葉工場



サッポロビールは1887年東京で設立、本格的な味わいの「恵比寿ビール」が大人気を博しました。生ビールのうまさを瓶詰にした「サッポロびん生」が「黒ラベル」の愛称となり、現在も同社の大黒柱となっています。

原料の大麦、ホップ、麦芽、を仕込み↓発酵↓熟成→ろ過↓パッケージングの工程見学の後、乾き切った喉に「黒ラベル」を流し込み、頂いたグラスをお土産に、ほろ酔い気分帰路に着きました。

二、町田との第2回合同カラオケ会開催

11月4日(土)に、2回目の多摩市&町田地域支部の合同カラオケ会を、当地域支部主催で行いました。当日は町田6名、多摩市11名が、聖蹟桜ヶ丘、川崎街道沿いのスナック「ブーメラン」に集合、約3時間の楽しいひと時を過ごしました。初めに自己紹介、中山支部長の乾



杯発声、続いて喉ならしの2曲「青い山脈」「誰か故郷を想わざる」を全員で合唱してスタートしました。そして各々自身の持ち歌を1曲ずつ披露。その後は、飲んで歌い話し、大いに盛り上がりました。

三、第2回麻雀同好会開催

伊東 勝義(S35商)



雀荘マーチャオ

8月29日(火) 残暑厳しい中、初回と同じ多摩センター駅近くの雀荘「マーチャオ」で麻雀同好会を開催。4名対戦となりました。うん十年ぶりの前回と違い、多少慣れてきましたのでチョンボも少なく、校舎を通り抜け、駿河台下の雀荘で青春を謳歌した時代が甦り、楽しいひと時を過ごしました。

今後は他地域支部とも連携し、同好者を増やしていきたいと思っております。

四、第1回「歩こう会」開催

矢場 岩男(S43商)

9月27日(水) 天候は晴れ。初めての「歩こう会」を実施、校友7名が参加しました。9時55分若葉台駅をスタート、およそ1km歩いて稲城台病院の前から左に入り多摩市よこやまの道へ。

ここで菊池副支部長の指導により軽く準備体操を行い、給水後、よこやまの道に沿って歩くこと約50分。諏訪ヶ岳(216.6m)の小高い丘で水分補給の小休憩。続いて「防人見返り峠」で2回目の水分補給と小休憩。参加者全員大汗をかいいたこともあり、榎田幹事差し入れのチョコレートやキャラメル、美味しかったなア。

国士館大学体育学部校舎の裏側を進み、目標の一本杉公園到着12:05。それぞれの万歩計は8,500歩、12,500歩、14,000歩と不思議なことにいろいろしたが、公式の距離は菊池副支部長によると5kmとのこと。(小生



一本杉公園到着

の場合1km約1,400歩、計ると7(8km)。

ここでも、煤田幹事差し入れのみ
ずみずしい「ありのみ」は正に、干
天の慈雨。ここからバスで多摩セン
ターへ移動し、汗を流し小腹の空い
たところで「たまの里」にて昼食。
もちろん一杯付き。ビールがまた格
別美味しかったア。道中、通常では
得られない参加者同士の四方山話
を弾ませながらの楽しい行程でした。
実施に当たり、行程づくりに尽力
された菊池副支部長、煤田幹事に心
より感謝!

五、鉄道博物館見学&

ゆけむり横丁温泉入浴

10月7日(土)、大宮市にある日
本で一番大きな「鉄道博物館」見学
に行きました。

当日は、指定した「湘南新宿ライ
ン小金井行き」に事故の為遅延が出
て心配しましたが、多少の遅れで校
友6名、10時大宮駅に集合しまし
た。

大宮駅からニューシャトル・モノ
レールに乗り、一駅で「鉄道博物館
駅」に到着。駅と一体となっている
博物館にすぐ入れるはずでしたが、
土曜日の為か大混雑。期待に胸を膨
らませつつ、制限を受けながら5列

に並んでの入場です。事前にお願
いしておいたボランティアガイド(元
国鉄マンで博識の男性)の案内、解
説で見学開始となりました。

約東京ドーム1個分の敷地、建物
の中に38台の貴重な機関車、車両
が展示されており、圧倒されました。
明治5年にイギリスから最初に輸入
された蒸気機関車、明治13年に北
海道を走った「弁慶号」、日本に1
台しかない機関車、明治大正期の芸
術作品内装の御料車両、日本初の通
勤車両、国の重要文化財指定の列車
等々、さらには最近まで活躍してい
たブルートレインや新幹線まで、歴
史的にも意義のある貴重な展示品
を堪能させてもらいました。続いて
最近改装されたミニチュア列車多数
が電気で走る大規模な「ジオラマ」
装置を見学しました。

その後、大宮駅に戻って昼食。次

温泉でくつろぐ校友の皆さん



の目的
地は、
シャト
ルバス
で15分
程の日
帰り温
泉施設
「湯け
むり横

丁」。ここでひと風呂浴び、大宮駅
前の居酒屋で喉を潤して楽しい1日
を終りました。

六、VIPな気分で楽しい競馬

通例の府中地域支部主催「東京競
馬観戦」が、11月18日(土)東京競
馬場で行なわれました。



当日は曇
り空良馬場
の下、校友
32名(当地
域支部から
は6名)が
午前10時、
正面入口に
集合。特別
受付で氏名
服装チェツ
クを受けた
後、8Fの

VIPルームへダービールーム15号
室に案内されました。そして府中
地域支部中島幹事長、都議及び市議
会議員の挨拶の後、いよいよ馬との
戦闘開始です。

11時30分には、中山支部長の乾
杯発声で観戦しながらの懇親会が始
まりました。ホテルオークラ調理の
昼食を味わいながらアルコールも入
り、賑やかなひと時になりました。

今回6名の戦果は、そこそこ儲か
った人、チョッピリの人、少しマイ
ナスの人と様々ですが、皆何回かは
当たり馬券を手中にしています。聖
蹟桜ヶ丘の焼き鳥屋での反省会も
大いに盛り上がりました。

七、伝統の関東大学ラグビー

対抗戦「明早戦」観戦

12月3日(日)快晴。当地域支部
会員6名と校友等12名が参加しま
した。

ほぼ満員の観客で埋まった秩父宮
ラグビー場。開始5分、自陣22メ
ートルライン付近でCTB梶村が相
手のパスをインターセプトし、その
まま約75メートルを独走。この先
制トライで試合を優位に進め、素早
いパス回しで相手を翻弄し、14対
7とリードして前半を終了。

1トライ1ゴール差まで詰め寄ら
れた後半13分、粘り強いタックル
で早大の攻撃
をしのいだ後
右ラインアウ
トから展開。
CTB鶴田が
突破し、エー
スの快足WT
B山村が左隅
へ飛び込んで

輝くスコアボード



トライ。

さらに22分には、スクラム後のラックからSH福田がトライを奪い、明大が29対19の10点差で快勝しました。帰りは、いつもの居酒屋で久しぶりの美酒に酔いしれ、校歌を斉唱して解散しました。

今後の事業計画

一、百草園寒梅

- ・日時：2月25日(日)
- ・現地集合：10時30分

二、第10回多摩支部地域支部対抗

デイスクゴルフ大会

- ・日時：3月24日(土)
- ・場所：昭和記念公園
- ・多摩支部より実施要領が届き次第参加者へ連絡します。

三、同好会

◆カラオケ「紫紺の会」

- ・日時：原則 毎月最終週土曜日 (次回は3月31日)
- ・午後3時分30～6時15分
- ・場所：ひじり館2F和室
- ・会費：500円
- ・参加申込：矢場岩男まで

(携帯)

(メール)

なお、会場予約の状況により、日時が変更になった場合は、メール等でご連絡いたします。

◆麻雀

- ・日時：2月19日(金) 10～17時
- ・集合場所：京王多摩センター駅改札口(9:50集合)
- ・雀荘：マーチャオ 多摩センター駅徒歩3分 乞田川沿いビル5F
- ・費用：2,500円
- ・(内訳) 場代1,500円・参加費用1,000円)

◆歩こう会 計画中

- ・麻雀と歩こう会の参加申込・問合せ：榎田茂美まで
- (電話) [REDACTED]
- (メール) [REDACTED]

会員活動便り

一、モットーは

「今ここで精一杯」

榎つきみ(S53商)

現在、青少年健全育成を目的とする「多摩市青少年問題協議会(略して青少協)落合地区委員会」の会長をして15年目になります。一昨年12月19日、都庁にて「東京都青少

年育成協力者等感謝状」と記念品を頂きました。平成28年度「こころの東京革命推進モデル」に、落合地区委員会「八ヶ岳キャンプ事業」が指定された事に依るもので、昨年2月6日には、都庁ホールにて事例発表を行なってきました。

このキャンプには地元東落合小学校児童を中心に市内全域から90名程の児童が参加、中高生リーダーと大人の世話人を加えると150名近くに。市内で一番大きな「泊三日のキャンプ」です。お土産は、新しい友達とたくさん楽しい思い出。「地域ぐるみで子どもを育成」と評価されたの感謝状でした。



小池都知事から表彰状授与

関わったきっかけは、20年前小学校PTAで青少協担当の副会長になった事でしたが、さらに数年前の猛暑の夏が本当の意味での始まりでした。自宅近くの鶴ヶ峰公園の維持管理を委託されていた老人会の

方々が、あまりの猛暑で作業が滞りがちになり、それならば、「いつも使っている私達でやろう」と毎月子どもたちを集めて清掃と草むしりを始めました。老人会の方々は大変喜んで下さり、毎回「褒美のジュースと、年に一度「花火でもしてね」と活動費を下さったのです。今では200名近く集まる夏のイベントになりましたが、青少協に関わって初めて、「自分が続けてきた公園清掃も花火大会も、青少年健全育成事業と呼ばれるものだった！」と驚きました。

実は青少協は、地方青少年問題協議会法(昭和28年法律第83号)を受けて、全国の自治体に設置されるようになった組織です。各自治体で名称は異なりますが、首長の附属機関として設置されており、多摩市では昭和35年に青少年問題協議会条例(条例第10号)に基づき誕生。現在15地区委員会があります。市政施行が昭和46年ですから、多摩町当時に設置された事になります。私の実家にも古くから貼られていた挨拶標語がありました。作成者は健全育成団体だったと気づいたとき、私自身多くの大人に見守られて成長してきたのだと胸が熱くなりました。その後は、様々な事に精一杯取り

組み、4人の子どもたちと共に私自身も成長、新たな依頼を受けるたび悩みながらも挑戦してきました。民生委員の仲間の「主任児童委員」、学校支援地域本部の「落合地域学校教育連携コーディネーター」、東落合小学校の「放課後子ども教室リーダー」、さらに「東京都利島村教育委員会外部評価者」。多摩市の公民館通信「たのしいまち」の市民編集委員としても20年近くになり、表紙の取材記事「人♥ネットワーク」担当となつて10年を越えました。いつか、公民館利用者の多摩市地域支部会員の方を取材できる日と、願っています。

昨年、青少協会会長の会長、主任児童委員部長など、役職がたまたま重なって、大変忙しくなりました。民生委員制度百周年を記念した全国大会にも参加させて頂きましたが、天皇皇后両陛下の御臨席には大変驚きました。会場が広過ぎて、お姿はほとんど見えませんでした。先日、多摩市の美化に貢献したという事で、代表を務める「青木葉できる事から始めよう会」が表彰を受けました。今後はも居住する落合青木葉地域を拠点に、未来を担う子どもたちの成長を願って、支え合いの地域づくりを邁進して参ります。

二、声を失つて4年、第2の声を取り戻す

杉山 喬(S45工)

下咽頭がんと手術を受け昨年12月で4年になりました。手術の後遺症で生活に多少の不都合が残るものの、その生活にも慣れほとんど手術前の生活を送っています。

手術後2年経った時に東京マラソンを完走(紫紺7号掲載)し、体力面では大きな自信を持ってました。残された課題はコミュニケーション手段である声を取り戻すことで、今でも闘っています。

下咽頭がんで声帯を摘出しましたので、手術後しばらくは全く話すことができません。筆談での生活が続きました。



杉山 喬さん

そんな中で術後4ヶ月過ぎた頃に、第二の声を取り戻す活動をしているボランティア団体の公益社団法人銀鈴会に入会しました。入会後は週に3日、食道の粘膜を振動させて発声する食道発声法の訓練を受けました。しかし、くらくら練習しても声を出すことが出来ません。ついには入会して3週間経

った頃には発声練習を止めようかと真剣に考えました。

ある日にそのことを家内に伝えました。「いくら練習しても声が出ない。自分には無理と思う。これからは筆談で過ごしたい。仕事もこの3月に無事終えたので、これからは自分の時間を大切にしたい」と。

ところが家内からは「これから初孫が生まれるのに。孫が字を読めるのは先の話だからね。」と厳しい一言。

その日の深夜、夢の中で、職場で話せない自分の寂しそうな姿が現れて、そこで目が覚めました。その後は朝までまんじりともしない時間を過ごし、そんな中で出した結論は「話ができないことには、何も始まらない。よしもう一度頑張ろう」と。そして入会してからの1ヶ月後、ついに「あ」の声を出来るようになった。

その時の嬉しかった事は言うまでもありません。第一声の「あ」が出てからは、声を出すコツをなんとかつかめ、それから50音の練習、簡単な挨拶、本の朗読などの練習を積み重ね丸3年、無事発声教室を卒業することができました。

孫も今年の5月で満4歳、今では私より上手く話せますが、私との会

話もちゃんと成り立っています。失声した時には、話せるようになるのは夢にも思っていないでしので、声帯をなくしても新声門として声帯に代わる新たな機能が備わる人間の不思議な力を感じました。

校友会では幹事をさせて頂いていますが、食道発声という第二の声で日常会話が出来たようになった頃から、役員会で活動報告等もやらせていただいています。と言っても健康者のように大きな、はっきりした声は出ません。役員の方々のフォローと暖かいお心遣いで活動を続けさせていただいています。おかげで障害をもっているとの意識が徐々に薄れてきています。

昨年3月発声訓練教室を卒業し、4月からは立場を変えて同じ障害者に声を取り戻す指導員としてボランティア活動を行っています。一人でも多くの障害者が第二の声を取り戻し、失声前と同じような生活に戻れるようにと願いつつ、新米指導員として頑張っています。そのため、校友会の役員会、行事参加等にあまり出席できませんが、お許しいただくと同時に、私のできる範囲内で今後も校友会活動に協力していきたいと思えます。

趣味

一、水彩画を描く シリーズ⑦

中山 雅雄(S 37法)

志賀高原の秋

山深い志賀高原の秋の景色を描きました。白樺の木の肌の白さ、黄色い葉の美しさ。湖面の色の美しさ。優雅な自然の色を堪能しました。絵を描くのは自分の好きな色を思い切り表現することです。色は本当にいいものです。



「志賀高原の秋」

二、墨絵を描く シリーズ③

榎田 成美(S 41法)

貝合わせ

二枚貝というものは、決して他の貝とは合いません。それで昔のお姫様は、お輿入れの時にはまぐりを入れた貝桶を持っていきましました。それは、その方以外には決して嫁ぎませんという意味が込められていたのです。そしてその貝で遊ぶのが貝合わせです。三百六十個の貝の一方(地貝)を並べ、もう片方の貝を一個(出し貝)出し、並べた貝の中から同じ模様の貝を探す遊びです。たった一つしか合うことはないのです。昔から遊ばれていたようです。



「雅の春」

会員ギャラリー
自慢の一葉⑩



①大荒れの翌朝 (立山)

撮影者 鶴田 勇雄(S37法)



②クマタカ (丹沢湖)

撮影者 矢場 岩男(S43商)

会員の動静

(順不同・敬称略)

入会者

木村敏文(S 45法) 宇治博貴(S 49法)

退会者

井上郁雄(S 39商) 榎瀬陽平(H 22文) 林茂樹(H 01商) 最上谷宣次(S 36商) 渡辺和則(S 54商)

物故者

山下憲男(S 44農) 松本邦彦(S 37工) 杉田 誠(S 35経営) 逝去を悼み衷心よりお悔やみ申し上げます。

会員数 83名(平成30年1月現在) 会員相互の動静もお知らせください。



年会費納入のお願い
未納の方は、同封の振込用紙にてお支払いをお願いいたします。

編集後記

・異常な寒波で日本海側に雪害。TVの映像に胸が痛む。野菜は高騰し、家計を圧迫。春よ来い!

・「紫紺」へ多数の投稿を!(ヤ)